

RISU PRODUCE vol.22 20周年記念公演 第二弾

「ゼロ番区」

作・演出 松本匠

【配役】

南やすし死刑囚

松島 庄汰

今西死刑囚

富田 健太郎

秀島死刑囚

齋賀 正和

浜田死刑囚

横関 健悟

藤原刑務官

朝枝 知紘

小松刑務官

谷口 勇樹

古木看守長

伊原 農

【スタッフ】

作・演出 松本 匠

舞台監督 玉城 忠幸

舞台美術 加藤 ちか

音響 平田 忠範〔GENG27〕

照明 青木 大輔

宣伝美術 Brown:Design

収録・技術協力 HYU Kreate

キャストイング協力 北田 希利子

制作協力 J-stage Navi

企画・製作 RISU PRODUCE

1 【駒沢大学駅前の中華料理店】五月上旬

阪神タイガースの帽子をかぶり、店の外からある男を見つめている南やすし。昼時の為、店内はほぼ満席状態。
店の入口の扉は開いている。料理を待っているお客達の話し声が店内を活気付けている (SE)
暫くして暖簾をくぐり店の中へ入るやすし。
カウンターの端に座っている男にやすしが、

やすし よお！

やすしの声に気付かない男。

やすし おっちゃん、おっちゃん、おっちゃん！

やすしの声に振り向く男。

やすし やっと気付いてくれたな。おっちゃん、昼間からビールなんか呑んでええ身分やなあー

無言の男。

やすし 餃子は頼めへんのか、餃子は？

男が追加でビールを注文する。

やすし おい、またビール頼むんか？そんなにビール好きなんか？ビール呑むんは特別に許したるけど、僕だれか分かるか？能勢の南や、分かるよな？能勢の南や。

男が手にしていたグラスをカウンターに置く。

やすし 大阪から、わざわざおっさんを探しに来たんや。

やすしの言葉に動揺する男。

やすし おっさんらが出てくるんを、こんな小さい頃からずっーと待ってたんや。

男の表情が強張った瞬間、肩に掛けていたバッグから拳銃を取り出し銃口を男に向けるやすし。

やすし おっさんが、最後の一人や・・・何で来たんか分かるよなあ？

男に向けて発砲するやすし（SE）足を撃たれ悲鳴を上げている男。
発砲音の後、無音になる。同時に照明が少しずつ変化していく。

やすし おっさんらのせえで、何もかもおかしくなったんや。ついでに僕の頭もな。

男の肩を目がけて、再び発砲するやすし (SE)

店内のお客に、

やすし 距離が近いんもあるけど、ピストル撃つん上手いでしょ？家の近所の山奥で、空き缶使って練習してたんで。

恐怖におののいている店主とお客達。

やすし 大将、もうすぐ終わるから堪忍してね。

(M1) in

やすし 皆さんも、もうちょっとだけ辛抱して下さい。料理が来るまでには終わりますから。もうちょっとだけ、我慢して下さい。

イントロが流れている中、倒れ込んでいる男に、ゆっくりと視線を向けるやすし。

やすし 何であんな事したんや。何でや？

意識が朦朧としている男。

やすし あんな事しといて、おっさんは何で今も生きとんねん？

少しの間

やすし 昼間っからビール呑みやがって、おかしいやろ？

少しの間

やすし きっとあれやなあ、いや、きっとやなくて、間違いなく、そんな事を許すこの世の中がおかしいんや、なあー大将？

震えている店主。

やすし そやからそんな世の中を、僕が直さんといかんのや、分かるか？

三発目を男の腹に目掛けて発砲するやすし (SE)

やすし 最後の一発は僕の・・・僕の両親の・・・

四発目を男の胸元に発砲するやすし (SE)

やすし 大将、僕、携帯持ってないから、警察呼んでくれますか？迷惑掛けてホンマ、すんません、すんません・・・でも何か、すっきりしたなあ。

(M1) up (暗転) 転換スタート。

2 【東京拘置所 新四舎二階】九月上旬 午後2時頃

拘置所の前にある公園から、夏の終わりを告げているかのように、ツクツクボウシの鳴き声が(SE) 新四舎二階の一番奥にある死刑囚舎房内にまで聞こえている。

ツクツクボウシの鳴き声が少し流れた後、

廊下突き当たりの右側の独居房（単独室）に収監されている

メガネをかけた浜田死刑囚が唱えている般若心経も聞こえて来る。

照明が (FI) ゆっくりと徐々に全体明りに変化する。

浜田の隣の独居房に収監されている今西死刑囚は本を手に持ち、正座の姿勢を保ちながら眠っている。

そして新四舎二階で在監期間が一番長い秀島死刑囚は胡座をかきながら袋貼りの請願作業をしている。

暫くして悪夢にうなされている今西の声が、

今西 (小声で) 何するんですか・・・ちょっと待って下さい・・・離して下さいよ！僕は冤罪なんです。

声が徐々に大きくなっていく。

今西 信じて下さい！僕はやってないんです！やってないんです！だから離して下さい！！離して下さい！！先生！！こんな事許されていいんですか？無罪を晴らすまでは、死ぬ訳にはいかないんです！！
(大声で) 離して下さい！！離して下さい！！

今西の叫び声に反応する浜田と秀島。
悪夢から目が覚めた今西。
少し呼吸を整え、立ち上がる今西。

今西 浜田さん！浜田さん！！聞こえますか？
浜田 はい、聞こえてますよ。
今西 今日は何曜日でしたっけ？
浜田 日曜日です。
今西 ホントですか？
浜田 ええ、法務大臣も休日ですから、安心して下さい。

安堵のため息をつき、我に返る今西。
作業をしながら淡々と秀島が、

秀島 おい今西！あやうく形場へ連れて行かれるところだったのかよ？
今西 ……
秀島 おしかったなあ？
今西 ……

少し笑いながら秀島が、

秀島 安心しろ、そのうち必ず迎えが来るから。

今まで黙っていた今西が、

今西 秀島さん？

秀島 何だよ？

今西 構ってくれる相手がいないからって、無駄に話しかけないで下さい。

秀島 未だに刑事に騙されて、仕方なく自白したとか言い続けてるけど、いい加減、もう諦めろ。ここ新四舎二階にいる死刑囚の中で上告して最高裁で争ったのは、お前だけじゃねえーかよ。今やってる事はそれと同じなんだよ。いつまでもみっともない事、やってんじゃねえーよ。

秀島の言葉に対し、一切、無視をしている今西。

継続して作業をしている秀島が、

秀島 おい、メガネ？

浜田 はい？

秀島 今更だけど、お前はどのようにして上告しなかったんだよ？

浜田 罪を犯したのは事実だし、犯した罪に値する償いを、素直に受け止めたかったからです。

秀島 今西、聞いたか？

今西 ……

秀島 メガネは犯罪者の鏡だな。

少し複雑な浜田。

浜田 秀島さんは、どうしてですか？

秀島 どうしてって、極刑を覚悟してやったんだから上告する必要なんて

ねえーだろ。生まれ変わったとしても、今西みたいな格好悪い真似は俺には出来ねえーよ。

今西 秀島さん？

秀島 考えが変わったか？

今西 あなた達、犯罪者と一緒にしないで下さい。

今西の言葉に笑っている秀島。

浜田 今西さん、他人の意見は気にしないでいいですよ。思うがままに行動すればいいんです。真実は一つしかありませんから。

無言の今西。

秀島 おいメガネ！何偉そうな事、言ってんだよ！

淡々と浜田が、

浜田 失礼しました。では生意気な発言のお詫びに、今朝、完成した新作の俳句を披露したいと思います。

メモ帳を手に取り立ち上がる浜田。

秀島は作業に没頭している。

浜田 まずはジャブ程度に・・・死の準備心は常に自然体。

全く相手にしていない秀島と今西。

浜田 いつ来るの 執行待ちわび 日々過ごす。

ボソボソ言いながら次の俳句を詠む浜田。

浜田 無の境地 常に求めて 日々過ごす・・・何か乗ってきたな。
秀島さん、次の一句でノックアウトされますよ。

無言の秀島。

浜田 ルールルル ルールル ルールル キタキツネ。どうですか？

秀島 どうですか？って、もういいよ！

浜田 えっ！もういいんですか？

秀島 あのよお、お前の俳句はいつも暗いし、意味分かんないのが多すぎるんだよ。

浜田 そんな事ないですよ。

秀島 そんな事あんだよ。

浜田 おかしいなあー

秀島 教誨に参加してから死への恐怖が吹っ切れたとか言ってるけど、本当は死ぬのが怖くて俳句に没頭してんだろ。

浜田 違いますよ。

秀島 そうなんだよ。

浜田 違いますよ。

秀島 俺とお前の仲なんだから、正直に言えよ。
浜田 違いますよ！！

突然、浜田が後頭部に手を当て悲鳴をあげる。
悲鳴を聞いた秀島が、

秀島 おい、おいメガネ！大丈夫か？

浜田 は、はい。

秀島 また頭が痛くなったのか？

浜田 ……はい。

秀島 先週、医務室で診てもらったんだろ。

浜田 はい。

秀島 何て言ってたんだよ？

浜田 夏バテの影響だから心配ないって。

秀島 何が夏バテの影響だよ！あんなヤブ医者、話になんないから、
一度シャバの病院でちゃんと診て貰いたいって頼めばいいだろ。

浜田 お気遣いありがとうございます。ただこの頭痛は昔からの持病なので
気にしないで下さい。

秀島 言いにくいんだったら、俺から頼んでやるから。

浜田 ただの偏頭痛なんで、本当に大丈夫ですから。

秀島 ……

浜田 秀島さん、ありがとうございます。

秀島 ……

浜田 では秀島さんの優しさに対して、今浮かんだ俳句を披露したいと思い

秀島 ます。
秀島 もういいよ！
浜田 ホントにいいんですか？
秀島 ああ。

少しガッカリしている浜田。

秀島 おいメガネ？そろそろやすしの野郎が戻って来んじゃねえか？
浜田 そうですね。
秀島 また騒がしくなんだろうな。
浜田 ええ。
秀島 このままずーっと懲罰房（保護房）に入ればいいんだよ。
浜田 私はやすしさんが居る方が楽しいですけど。

秀島 何が楽しいだよ？戻って来たら、あのボロボロの草履を捨てるように注意しねえと。
浜田 どうしてですか？
秀島 あんな草履をいつまでも履いてるから、俺達まであのクソ野郎に目を付けられてんだから。

廊下の奥から微かに聞こえてくる足音に気付き、耳を澄ます浜田。

秀島 おいメガネ、安心しろ。クソ野郎じゃねえーよ。

安堵の表情の浜田。

今西はそのまま読書が続いている。

藤原看守と小松看守と共に南やすし死刑囚がやって来る。

藤原 今後、二度と規則を破らない事を約束出来るか？

やすし 約束は出来ますけど、別に僕は規則を破ってないんですけど・・・

藤原 言い訳はいいから、反省したんだな？

やすし ……はい。

藤原看守が呼子笛を大きく鳴らし、
房内の死刑囚達が一斉に立ち上がる。

藤原 出房！！

「はい」と返事をする死刑囚達。

藤原看守が電子キーで房の扉を開ける。扉が開く音は3つ（SE）

各房の前に直立不動で立っている死刑囚達。

藤原 まずは二週間振りに一五〇番が戻って来た。以前と変わらず仲良くしてやってくれ。それと今日からここ新四舎二階に新任の担当刑務官が配属される事になった。小松刑務官だ。初等科研修を終え初めての勤務地が東京拘置所になる訳だが、これも何かの縁だから宜しく頼むぞ。

やすしと浜田だけが「はい」と返事をする。

藤原看守が小松看守に目で合図をする。

小松 小松です。今日から皆と寝食を共にする事になるが宜しく。

一礼する死刑囚達の中で、小松看守の目つきを気にする秀島。

藤原 じゃあ二一五〇番から自己紹介を頼む。

浜田 二一五〇番です。在監期間は五年と三ヶ月です。

今西 五七〇番です。在監期間は半年です。

やすし 南やすしです。

藤原 一五〇番！本名を名乗るのは禁止だろ！

やすし あっ！失礼しました。一五〇番です。ここに来て六年が過ぎました。

秀島 二七〇番です。七年と八ヶ月です。

藤原 ありがとう。（小松に）何か言っておきたい事は？

小松 いいえ。

藤原 因みに紹介しておくが、二一五〇番の趣味は俳句で、それもかなりの腕前なんだ。

無反応の死刑囚達の中で一人誇らしげな浜田。

藤原 二一五〇番、せっかくだから一句、どうだ？

浜田 はい！

ポケットからメモ帳を取り出す浜田。

浜田 では・・・暗闇に迷わぬ心が不動心。

無反応の死刑囚達。

浜田 迫る日を揺るがぬ気持ちで待ち望む。

無反応の死刑囚達。

浜田 迫り来る その日は 一体いつなのか。

無反応の死刑囚達。

浜田 最後にもう一句。ルールルル ルールル ルールル キタキツネ。

藤原 二一五〇番？

浜田 はい？

藤原 最後の一句は、俳句と言えるのか？

浜田 はい、もう一句、いいですか？

藤原 いや、もう十分だ。

浜田 ……いいんですか？

藤原 ああ。俺は俳句の事は詳しくないけど、季語を入れた方がもっと俳句に深みが出るんじゃないかな。

浜田 ……

藤原 残念ながら今まで一度も入選した事はないけど、これからも継続して新聞社への投稿を続けるんだぞ。

浜田 はい。

藤原 では、そろそろ入房だ！

藤原看守が電子キーで、やすしの房の扉を開ける (SE)

藤原 入房！

「はい」と返事をして入房する死刑囚達。
入房しようとした今西が、

今西 先生？

藤原 どうした？

今西 最近、僕宛の郵便物が全く届いてないんですが？

藤原 本当か？調べておくから、少し待ってくれるか？

今西 はい、宜しくお願いします。

藤原 ああ。

入房する今西。藤原看守が電子キーで各房の扉を一斉に施錠する。

4つの施錠音 (SE)

施錠音が鳴り終わるまでは房内で直立不動の姿勢でいる。

施錠の確認を含め、指差し確認をする小松看守。

持ち場に戻る藤原看守達。

浜田 やすしさん、お帰りなさい。

浜田を励ますかのようにやすしが、

やすし おう、メガネちゃん！さっきの俳句、良かったよ。

浜田 ありがとうございます。懲罰房で変った事はなかったですか？

やすし 特になかったけど、もう懲り懲りや。今ちゃん元気やったか？

今西 . . .

秀島 そんな奴に話し掛けなくていいんだよ。

やすし また意地悪言うて、仲良くせんとあかんやん。

秀島 . . .

やすし 先輩、作業してんのか？

秀島 ああ。

やすし この二週間、作業でけへんかったから、僕もやらんとな。

浜田 戻って来たばかりだし、しかも今日は貴重な休日だからゆっくりした方がいいですよ。

やすし . . .メガネちゃんが言う通り、今日はゆっくりしようかな。

浜田 それがいんですよ。

やすし お金がないから仕方なく請願作業をやってるけど、正直、チマチマした作業はやりがないもんなあ。

秀島 そんな事言ったって、作業しないと欲しい物が手に入らないだろ？

やすし そりゃそうやけど、同じ作業でも農作業はやりがいあったもんなあ。

浜田 やすしさんの家、農家だったんですよね？

やすし うん、色んな野菜を梅田にある阪神百貨店に卸してたんや。

浜田 百貨店に？

やすし そうや。

浜田 じゃあ、味も確かだったんでしょ？

やすし まあね。あつ、そうや！メガネちゃん、明日は晴れるかなあ？

浜田 ちょっと待ってくださいね。

浜田が窓際に立ち、窓の隙間から雲の流れを見ている。

やすし 懲罰房に入ってる間、ずーっとキャッチボールの事ばかり考えてたんや。

やすしの言葉に少し反応する秀島と浜田。

浜田 明日も晴れますよ。

やすし よっしゃ、メガネ予報は外れた事ないからな、ありがとう。

秀島 おいやすし？

やすし どうしたん？

秀島 キャッチボールはもう出来ねえーよ。

やすし 何をアホな事言うてんの？

浜田 やすしさん！残念ですが、ホントなんです。

やすし えっ！どういう事？

浜田 やすしさんが懲罰房に入っている間に、あの新任の看守長が一方的に中止にするって。

やすし 嘘でしょ？

浜田 新しい方針が決まったからって・・・

やすし たった一ヶ月前にここに来たくせに偉そうにしやがって！今度会ったら猛抗議したるからな！

秀島 やすし！もう諦めろ！明日の運動時間まで生きてる保証もないんだから。

浜田 やすしさん？私も楽しみにしていましたが、冷静に考えると私達は死刑囚と言う立場なんです。いつその時がやって来てもいいように心の準備を常にしておく事が大切なんですから。

やすし

床に大の字になって、仰向けになるやすし。

浜田 でも、あの看守長が来てから、やたらと規則が厳しくなりましたよね？布団は没収され、お風呂も十日に一回だけになったし。しかも、やすしさんが懲罰房に入れられたのも、何かと言いがかりを付けられたのが原因ですから。

秀島 まあ、あれだよ、あんなクソ野郎、相手にしなくていいから。

浜田 分かりました。

秀島 それとやすし？今、履いてるその草履、もう処分したらどうなんだよ？ボロボロだし、さっきも変な臭いがすると思ったら、その草履の臭いじゃねえーかよ。作業で稼いだお金で新しいのを買えばいいだろ。

やすし . . .

秀島 その草履のせいで、クソ野郎からいちゃもん付けられるんだから。

やすし 先輩には分からへんけど、この草履はお爺ちゃんが僕にくれた大切な草履なんや！誰が何と言おうとこれだけはずっと履き続けるんや。今後一切、草履の事は言わんといてくれ！！このドアホ！！

いつになく激怒するやすし。

浜田 実は医務室で診察を受けた際、未決囚の方から聞いたんですけど、あの看守長はここに赴任する前は名古屋刑務所の所長だったらしいですよ。

浜田の話聞き少し動揺する秀島。

浜田 その刑務所で半年前に脱走事件が起きた際に、脱走した複数の受刑者が逃走先で強盗事件を起こし、その事件の責任を取り左遷されようです。刑務所にいた時も常に陰湿な嫌がらせをやっていたみたいで、嫌われ者だったそうです。

秀島 要するに将来、約束されてたエリートコースの道が閉ざされ、誰もが嫌がる東拘の、しかも死刑囚相手の看守長に一気に降格って訳か。

突然、廊下から足音が聞こえてくる。

その足音に敏感に反応する浜田。

廊下に古木看守長と藤原、小松両看守がやって来る。

照明が変化する。

古木 小松の顔合わせは、もう終わったんだよな？

藤原 はい、少し緊張していましたが。

古木 そりゃ仕方がないよな。何人もの人を殺め、極めて重大な罪を犯した連中なんだから。だがな、何事も最初が肝心だ。

小松 はい。

古木 年齢や経験は一切、関係なく、常に厳しく、違反行為を発見した際には即座に対応するように。

小松 はい。

古木 これだけは忘れるなよ、奴らは死刑囚だって事を。

小松 ……はい。

古木 それと先週、房内に規律違反の物が持ち込まれているという情報が入っていたそうだが、その後、何か動きはあったか？

藤原 その件に関しては、保安課長からの指示で昨日、警備隊が新四舎二階の全ての房を捜検しましたが、特に何も見つかりませんでした。課長には報告済みです。確か小松がその報告書を看守長の机の上に提出したはずですが？

古木 見てないぞ。

藤原 どういう事だ？

小松 昼食を済ませた後、看守長が席を外されていまして、机の上にメモを添えて置きましたが。

古木 そんな物は無かったぞ？

藤原 間違いはないのか？

小松 は、はい。

古木 まあいい。念の為にこれからもう一度、俺たちで捜検を行なう。

藤原 捜検は警備隊が行なうとの規定が？

古木 何を言ってるんだ。たまには休ませてやれ。先月大阪拘置所の房内から携帯電話が見つかったらしい。しかも捜検した翌日にだ。何事もそうだが、何か起きてしまった時には手遅れだろ？

藤原 ……
古木 私が立ち会うんだから大丈夫だ。捜検開始だ。
藤原 ……はい。

藤原看守が呼子笛を大きく鳴らし、
房内の死刑囚達が一斉に立ち上がる。

藤原 出房！！

「はい」と返事をする死刑囚達。
藤原看守が電子キーで房の扉を開ける。扉が開く音は4つ（SE）
各房の前に直立不動で立っている死刑囚達。

藤原 これから房内の捜検を行なう！
秀島 どういう事ですか？昨日、やったじゃないですか？
古木 だから何だ？
秀島 警備隊もいないし、おかしいでしょ？
古木 所内で緊急事態が起き、警備隊総出で、一斉捜検を行っている為、
人員が足りないんだ。だから特別に我々だけで再度行なうから、
いいな？
秀島 ……
古木 これは命令だ！

納得のいかない秀島達。

古木 捜検開始だ！

呼子笛を鳴らす古木看守長。
一歩前を出て、草履と着ている服を脱ぎ、下着姿になる死刑囚達。
靴を脱ごうとした小松看守に古木看守長が、

古木 小松？靴は脱がなくていいよ。

小松 . . .

靴のまま房内に入る藤原、小松の両看守。
動きが鈍いやすしや、浜田に対して古木看守長が、

古木 早くしろ。

下着姿になった死刑囚達。
古木看守長が呼子笛を少し長めに鳴らす。
呼子笛の音が消え、照明が変化。やすしのナレーション (in)
素肌がはっきり見えない程度の明りを予定。

x x x x x x x x

やすしのナレーション

この身体検査は捜検の時、つまり房内検査の時には、必ず行われる儀式である。通称カンカン踊りと言う。これをやらされる度に僕達死刑

囚は、自分達が置かれている立場を、再認識させられるのである。

カンカン踊りの尺があるので、
ナレーションはスローな話し口調で録音予定。
ナレーションが流れている中で死刑囚達は、

× × × × × × × ×

大きく手を広げ、口を開いたまま片足立ちになり身体を右に傾ける死刑囚達。古木看守長がもう一度、短めに呼子笛を鳴らす。

× × × × × × × ×

身体を左に傾ける死刑囚達。
古木看守長がまた呼子笛を鳴らす。

× × × × × × × ×

両足を広げ、身体を前屈させる死刑囚達。
死刑囚達の背後に回り、下着の中をチェックする古木看守長。
四人目のチェックを終え、呼子笛を長く鳴らす古木看守長。

× × × × × × × ×

呼子笛の音が消えたと同時に照明が変化。
慌てて服を着る死刑囚達。

古木 五七〇番？
今西 はい？
古木 少しはここには慣れたか？
今西 いいえ。
古木 まだつまらない事をやっているのか？
今西 つまらない事って？
古木 上申書の事だよ。
今西 ……
古木 もし冤罪だと言うのなら、どうして刑が確定してからすぐに始めなかったんだ？
今西 死刑判決が確定した時は、何も考えられない精神状態だったので。
古木 なるほど……再審請求の制度がある事は誰に聞いたんだ？
今西 二審判決が出た時点で弁護士から何となく聞きました。
古木 その後は？
今西 その後とは？
古木 この拘置所内で具体的に詳しく聞いた事はないのかという事だ？
今西 支援団体の方が面会に来た際に聞きました。
古木 それ以外には？
今西 ……ありません。
古木 嘘付くんじゃないよ。
今西 ……
古木 法律に詳しい清水と言う雑役夫から、根掘り葉掘り聞いたんじゃないのか？

今西 ！！
古木 最近、そいつの顔を見てないよな？
今西 ・・・
古木 規律違反で懲罰房に入ってるよ。
今西 ！！！！
古木 お前のせいで拘禁ノイローゼになってるらしいよ、可哀想に。
今西 ・・・
古木 再審請求の門が開かれる為に、一番重要な事は何か言ってみろ？
今西 今までになかった決定的な新しい証拠を見つける事です。
古木 その通りだ。じゃあその証拠を二度とシャバに出る事が出来ないお前
 がどうやって見つけるんだ？
今西 ・・・
古木 どうした？答えてみる？
今西 ・・・
古木 再審請求中は再び裁判が行われる可能性が微かにあり、そうなれば
 一日でも長く生きる事が出来る・・・その為なんだよな？
今西 違います、僕が無実だからです！
古木 昔と違って再審請求中であっても、刑が執行される可能性はあるんだ。
今西 ・・・
古木 良く考えてみる？再審請求が通るなんて不可能なんだ。死刑判決が下
 り、急に死ぬのが怖くなり、その恐怖から逃れたいから再審請求にし
 がみついているんだろ？
今西 違います。

古木 そんな無駄な時間を費やすのなら、被害者や残された遺族の為に何が出来るか、それだけを考えていればいいんだ？お前がその気なら明日にでも教誨に参加する手続きを取ってやるから。

今西 お言葉を返すようですが、私は冤罪なんです、やってないんです。

古木 もういいよ・・・必ず後悔させてやるからな。

今西 ……

藤原、小松両看守が捜検を終え、

藤原 看守長、房内において規律違反に値する物は見つかりませんでした。
入房！

古木 おい待て・・・全員正座だ。

藤原 ……

古木 聞こえなかったのか？正座だ。

草履を脱ぎ、その場に正座する死刑囚達。

古木 二一五〇番？

浜田 はい。

古木 最近、教誨に全く参加していないようだが、どうしたんだ？

浜田 体調がすぐれないもので。

古木 先日の検査では特に異常はなかったと聞いているが？

浜田 体調の事もありますが、今の正直な気持ちとしては、教誨に参加する事も大切ですが、もう一度、自分自身と向き合って、一日でも早く

その日が来る事を・・・

古木 何バカな事言ってんだ！一人で向き合っても、仕方がないだろう！

浜田 ……

古木 いいか、体調が良くなったらまたすぐに参加するように、もし参加しないというのなら、今後一切新聞社への投稿を許可しないからな！

浜田 ……

古木 二七〇番？

秀島 ……

古木 お前、金城を覚えているよな？

秀島 ！！

金城と聞き一瞬、動揺する秀島。

古木 藤原？

藤原 はい。

古木 今まで黙っていたが、こいつとは俺が刑務官になった時からの古い付き合いなんだ。

古木看守長の言葉に驚く藤原看守と死刑囚達。

古木 その金城が先週シャバに戻ったそうだな。お前もついてないよな。お前と共犯で事件を起こし、一方は懲役刑で先週出所し、主犯格のお前には死刑判決、まあ、それも人生だよな。今頃は組に戻って若頭にでもなってるなあ。

秀島 ……
古木 この前にも言ったが、俺はお前らがどんな事件を起し、死刑判決が下されたって事には全く興味はないし、あえて知りたくもない。それが俺の方針だ。(小松に) どうして分かるか？

小松 ……
古木 答えは簡単だ。犯罪を犯すような奴らに対して、同情や情けは一切必要ないからだ。

小松 ……
古木 だが唯一、名古屋刑務所にいた頃から、お前の事だけは気になってたんだよ。まさかこんな所で再会できるとはなあ？

古木看守長を睨みつけている秀島。

古木 何か言いたい事でもあるのか？
秀島 ……
古木 そうだ！俺の知り合いに刑事がいるんだが、射撃の成績が全くダメみたいなんだ。今度機会があったら、教えてやってくれよ？

秀島 ……
古木 お前はかなりの腕前だからな。

古木看守長を睨みつける秀島。

古木 藤原？
藤原 はい。

古木 入房させろ。

藤原 はい。

渋々、呼子笛を鳴らす藤原看守。

藤原 入房！

返事をしないで入房する秀島達。

古木 一五〇番？

やすし はい。

古木 お前はまだまだよ。

何かを感じるやすし。

藤原が電子キーで房の扉を施錠する。扉の施錠音は3つ（SE）

施錠音が鳴り終わるまでは房内で直立不動の姿勢でいる。

古木 一五〇番？

やすし はい。

古木 頭の調子はどうだ？

やすし ……

古木 どうなんだ？

やすし 頭の調子が悪いのは、二一五〇番じゃないですか？

古木 （笑いながら）何言ってるんだよ？お前の頭の事だよ！

やすし ……

やすしの足元を見る古木看守長。

やすし 先生、お聞きしたい事があるんですが？

古木 何だ、言ってみろ。

やすし 運動時間のキャッチボールが中止になったってホンマですか？

古木 ああ。

やすし 僕はあの時間を何よりも楽しみにしてたんです。

古木 だから何だ？

やすし 何で中止になったかその理由を教えてくださいませんか？

古木 知りたいか？

やすし はい。

古木 その前にその草履を脱げ。

やすし ……

古木 どうした？知りたいんだろ？

やすし ……

草履を脱ぐやすし。その草履を踏みつける古木看守長。

(M2) in

やすし 何するんですか！

古木 俺はこの前、草履を処分しろと言ったはずだ！

やすし だからこの草履は僕とお爺ちゃんとの思い出の草履なんで捨てる訳にはいかないんです。

古木 そんなに大切な物なのか？

古木看守長が踏みつけていた草履から足を離す。
やすしが慌てて草履を履く。

古木 お前は今、どういう身分なのか言ってみろ！

やすし . . .

古木 人を殺したんだよな？

やすし . . .

古木 お前は何人殺したんだ？二人か？三人か？

藤原 看守長！

古木 そんな人間が何がキャッチボールがしたいだと？いい加減にしろ。
今度同じ事を言ったら、また懲罰房に入れてやるからな！

やすし (ポツリと) キャッチボールをやらして下さい。

古木 今、何て言った？

やすし (大声で) 僕はキャッチボールがやりたいんです！！

古木 藤原？これから一五〇番を懲罰審査会に掛けるから審査室に連行しろ！

藤原 . . .

やすし (大声で) 僕はキャッチボールがやりたいんです！

古木 早くしろ！！

藤原 . . .

やすしに手錠をかける藤原看守。

古木 (小松に) 管理部長にこれから審査会を行うと知らせて来い!

小松 . . .

古木 俺の言う事が聞けないのか?

小松 . . .

古木 早くしろ!

小松 . . . はい。

慌てて審査室に向かう小松看守。
やすしが藤原看守に連行されようとした時、
房内から秀島が大声で、

秀島 おい! ちょっと待てよ!! 一五〇番は違反なんてしてないだろ。

テメエ一体、何様のつもりなんだよ!!!

藤原 二七〇番!!

古木 おいよく聞けよ! お前らの称呼番号の末尾に何故ゼロが付いているのか分かってるよな? 生きていても、何の価値も無い人間、つまり無意味な存在なんだよ。刑が執行される、最期の最期まで、とことん苦しめてやるから、ここゼロ番区でなあ . . .

照明が (CO) (暗転)
(M2) up 転換スタート。

3【東京拘置所 新四舎二階】九月下旬

平日の夕方、ひぐらしの鳴き声が微かに聞こえている (SE)

照明が (FI)

新四舎二階の廊下を歩きながら監視業務をしている藤原看守。
秀島は請願作業を、今西は読書をしている。暫くして視察口から
房内を覗き込む藤原看守。藤原看守に気付いた今西が、

今西 先生？

藤原 どうした？

今西 この前お伺いした郵便物の件ですが・・・

藤原 またその事か？届いたら必ず渡すから。

今西 そうですか・・・それと昨日お渡しした再審請求に関する資料ですが
間違いなく弁護士の事務所へ郵送して頂いてますよね？

藤原 大丈夫だから、心配するな！

今西 ありがとうございます。もう一つだけいいですか？

藤原 何だ？言ってみろ？

今西 再審請求の事に付いてですが、この先、上申書がすべて完成して申請
した場合、裁判所はどの位で結果と言いますか返事と言いますか・・・

藤原 そんな事は俺に聞いても分かる訳がないだろう？

今西 それはそうなんです、先生は色々とお詳しいと思ひまして。

藤原 俺は法律の事は詳しくないからなあ・・・

今西 ・・・

藤原 今から話す事はあくまでも一例に過ぎないから気にするなよ。
今西 はい。
藤原 四年前にあった話なんだが、仙台拘置所の死刑囚が五七〇番と同じように、再審請求に必要な上申書を五年間掛けて必死に作成して、裁判所へ申請したらしい。
今西 ……
藤原 申請して三年後に裁判所がその決定を下したんだ。最高裁での確定判決の事実認定は正当という事で、その請求を棄却したそうだ。
今西 ……その後、その人はどうなったんですか？
藤原 その十日後に刑が執行されたんだ。
今西 ……！！
藤原 詳しい事は支援団体の方や弁護士に聞く事だな。
今西 分かりました。
秀島 先生？
藤原 どうした？
秀島 一五〇番は元気にしてますか？
藤原 ああ。

持ち場に戻ろうとした藤原看守が立ち止まり、

藤原 五七〇番！諦めずに、頑張るんだ。
今西 ……

持ち場に戻る藤原看守。

秀島 だから言ってるんだろ、無駄な努力だってよ、何度も言うけど、再審請求が認められるなんて不可能なんだよ。お前もどれだけ厳しい事なのか分かってんだろ？過去の例からみても、お前はあと八年から十数年は、刑が執行される事はないし、そろそろ諦めて、何かしらの楽しみを見つければ、意外とここでの生活も楽しく過ごせるんだよ。

今西 秀島さん？

秀島 ん？

今西 秀島さんは僕が本当にクロだと思っているのですか？

秀島 正直お前は決して悪い奴だとは思わないけどさあ。

今西 ・・・

秀島 何もしてないのに疑いをかけられて署に連行されたとするだろ。そいつは本当はシロなのに、脅迫まがいの取調べや誘導尋問に耐えられなくなり、つい自分がやりましたと調書にサインをしたとする。その一言だけで、そいつがクロにされてしまうのが警察ってとこなんだよ。

今西 ・・・

秀島 自白は証拠の玉って言葉があるだろ？そんな事がまかり通ってしまうのが、今の社会なんだよ。ある意味人を殺したか殺してないかなんて関係ないんだよ。

今西 それじゃ、真実は何？

秀島 真実？法律や裁判所に、真実なんて無いんだよ！！

思わず大声を出してしまう秀島。

秀島 お前も時間が経てば分かるよ。無知な人間ほど損をする、この世の中と法律の仕組みがよお。

今西 ……

秀島 まあ、気晴らし程度にがんばれよ。

今西 ……

廊下から小松看守の足声が聞こえて来る。浜田と裸足のやすしが房に戻って来る。

小松 二一五〇番、入房！

浜田 はい。

小松 また体調に異変があったら遠慮なく言ってくれ。

浜田 ありがとうございます。

小松看守が電子キーで房の扉を開ける (SE)

入房する浜田。

電子キーで房の扉を施錠する小松看守 (SE)

小松 一五〇番、入房！

やすし はい。

小松看守が電子キーで房の扉を開ける (SE)

入房するやすし。

電子キーで扉の扉を施錠する小松看守（SE）
持ち場に戻ろうとした小松看守に秀島が、

秀島 おい若造？

秀島の声に立ち止まる小松看守。

秀島 少しは慣れたか？

小松 ……

秀島 まだ俺達の事が怖いのか？

小松 二七〇番、私語は禁止だ。

秀島 そんな事は分かってるよ。折角刑務官になったのに、こんな所に配属されて、お前も可哀想になあ。

小松 二七〇番！

秀島 まあ、これからも宜しくなあ。

無言で持ち場へ戻る小松看守。

秀島 やすし？大変だったなあ？

やすし もう慣れたから大丈夫や。

秀島 そっか。

やすし メガネちゃん、顔色悪かったけど、また具合が悪いんか？

浜田 いつもの偏頭痛です。

秀島 ここ二、三日夜中になるとかなり痛みが酷かったみたいで、俺達に気

を遣って声も出さずに我慢していた所を、たまたま巡回中の若造が気付いたんだよ。

やすし そろそろ先生にお願いして、シャバの病院でしっかりと診て貰ったらどうや？

浜田 ありがとうございます。でも大丈夫です。顔色はまだ悪いですが、痛みも取れてきましたし、医務室の先生も大丈夫だと。

秀島 だから医務室のヤブは信用出来ねえーって言ってんだろ。

浜田 分かりました。今度本当に我慢出来なくなったら、必ず先生にお願いしますから。

やすし 約束やからな？

浜田 はい、約束します。

やすし 僕はシャバでは友達が一人もいてへんかったんやけど、唯一警察署の刑事さんとは仲良くなりかけた事があったんや。でも結局あかんかったんやあ。そやけど、ここに居る皆は正真正銘の友達やから・・・

浜田 友達ですか？

やすし うん、今ちゃんもな。

今西 ……

浜田 あっ！そう言えば、いつも履いてたあの草履、履いてなかったですよね？

やすし ああ・・・あれや・・・先輩が言うてた通り、ボロ過ぎるから処分してもらったんや。

何かを感じている秀島達。

やすし 何かずーっと真っ暗な懲罰房に一人っきりでいてたら、毎晩昔の夢ばっかり見てたわ。

秀島 どんな夢だったんだよ？

やすし お爺ちゃんと農作業してたり、うちの畑から見える綺麗な夕日を、何も考えず眺めてる夢とか・・・

秀島 そっか・・・

浜田 やすしさんの畑から、そんなに綺麗な夕日が見れるんですか？

やすし うん、皆にも見せてあげたいなあ・・・僕は勉強はでけへんかったけど、農作業と人に対して嘘をつかへん事だけが自慢やから。

秀島 一度、見てみたいなあ、その絶景の夕日とやらをよお・・・

浜田 ええ。

秀島 じゃあ一皆で脱獄でもするか？

笑っている秀島、浜田、そしてやすし。

秀島 今西、お前も仲間に入るか？

やすし 何言うてんの先輩、もうちょっと時間が掛かるけど、今ちゃんはその事せんでも、シャバに出れるよ。

秀島 どうしてだよ？

やすし 何か僕らとは違うと言うか何と言うか・・・

今西 ……

浜田 あっ！そうだ！久しぶりに四人が揃ったので、ここで皆さんに新作の俳句を披露したいと思います。

秀島 おい、勘弁しろよ！

やすし ええやんか先輩！たまには好きなだけ詠ませてあげたら。

秀島 好きにしろよ。

すぐに立ち上がりメモ帳を手にする浜田。

浜田 それでは今回はやすしさんが懲罰房に入っている間に書き留めました作品を披露したいと思います。

拍手するやすし。

やすし 今ちゃん、ちょっとだけ勘弁してね！

今西 ……

浜田 裏切りの向こうに刃が牙を向く。

黙って浜田の俳句を聞いているやすし。

浜田 散る花に己の姿投影し。

何かを感じている秀島。

浜田 あの日さえ無ければ回想ばかりかな。

秀島 メガネ？何だかいつもの俳句と感じ違うんじゃないか？

浜田 気付いてくれましたね。でも、暗いですよね？

やすし そんな事無いよ、どんどん詠んで！

浜田 は、はい。何かエンジン全開になって来たぞ。

浜田の言葉を聞き、微笑んでいるやすし。

浜田 秋近し やすし居てこそ ゼロ番区。
秀島 おい、やすしが俳句に登場したじゃねえーかよ。
やすし ほんまやな。
浜田 やすし無き 番区ほんとに ゼロ番区。
秀島 またやすしが登場したよ。
浜田 再審を 信じる気持ちが 真実と。

何かを感じる今西。

(M3) in

浜田 奥底に うごめく真実ただ一つ。
今西 . . .
浜田 閉ざされた 扉の向こうにあるものを。
秀島 メガネ、お前、偏頭痛の痛みで脳の回路が変わったんじゃねーのか？
浜田 そんな事ないですよ、俳句は自分の今の気持ちを素直に五七五の十七音で表現する事が大切なんですから。秀島さんも一句どうですか？
やすし そんな無理に決まってるやん！
秀島 バカ野郎！こう見えても、実は俳句は得意なんだよ。
やすし ホンマかいな。
秀島 ホントだよ。
浜田 じゃあ是非お願いします。

秀島 分かったよ。

立ち上がり秀島が、

秀島 偏頭痛 浜田の俳句に 変化あり

秀島の俳句に笑っているやすしと浜田。
俳句に耳を傾けていた今西にも薄ら笑顔が。

浜田 中々いいじゃないですか？

やすし メガネちゃんも出てきたやんか。

浜田 何か嬉しいですね。

やすし 先輩、他にないんか？

秀島 分かったよ・・・ごまかせぬ 昼寝の顔を 許されし。

やすし どう言う意味なんや？

秀島 意味ってあれだよ。たまに昼寝がバレてんだけど、藤原ちゃんが見逃
してくれてるって言うか・・・

浜田 秀島さん、凄くいいですよ！！

秀島 あれ？こんなに誉められたのはいつ振りだろうな？

浜田 ホントにいいですから！

秀島 じゃあー調子に乗ってもう一句。

浜田 お願いします！！

秀島 願わくば 娘の顔を 拝みたし。

浜田 (興奮して) 最高ですよ！秀島さん！！

秀島　　また褒められちゃったよ。
やすし　娘って先輩、結婚してたんや？
秀島　　ああ。
浜田　　お子さんの名前は何て言うんですか？
秀島　　内緒だよ。
浜田　　せっかくなんで教えて下さいよ！
やすし　教えてや先輩！
秀島　　秀美だよ。
やすし　石川秀美の秀美か？
秀島　　例えが古いんだよ。
やすし　あっ！今は薬丸秀美か？
秀島　　どっちでもいいんだよ。
浜田　　娘さんは何歳ですか？
秀島　　もう、いいよ。
浜田　　教えて下さいよ、もっと皆さんの事が知りたいんです。
秀島　　・・・
浜田　　私達は友達なんですから。
秀島　　・・・もう少しで9歳だよ。
浜田　　一番可愛い頃ですよね？
秀島　　・・・
浜田　　あっ！失礼しました。
秀島　　気にしなくていいよ。
浜田　　あっそうだ！この際、今西さんも一句どうですか？

一瞬、浜田の言葉に反応する今西。

やすし じゃあー僕が代わりに一句、披露しようか？

浜田 お願いします。

やすし 先輩？しっかり聞いといてや？

秀島 ああ。

やすし 夕暮れにカラスの群れがやって来る。

拍手する浜田。

秀島 何拍手してんだよ、今のはただの作文じゃねえーかよ？

浜田 最初は何でもいいんですよ、ねえーやすしさん？

やすし その通りや！先輩の俳句よりも・・・

秀島が廊下からの足音に気付く。

秀島 おい、やすし！やすし！

やすし どないしたん？

秀島 クソ野郎だよ、こんな時に限ってよ・・・

姿勢を正す死刑囚達。廊下に古木看守長がやって来る。

古木 二一五〇番、出房だ！

浜田 は、はい。

古木看守長が電子キーで房の扉を開ける (SE)
出房する浜田。

古木 報告があったが、また体調が悪くなっただらしないな？
浜田 は、はい。でももう大丈夫です。
古木 お前はいつまで仮病を通すつもりだ？
浜田 ……
古木 この前言ったはずだ！体調が良くなったら必ず教誨に参加しろと。
浜田 ……
古木 今回も特に異常は無かったよな？
浜田 先生、信じて下さい、決して仮病じゃないんです、子供の頃から……
古木 そんな嘘はもういいんだ。
浜田 ……
古木 よく聞け！今日から新聞社への投稿を一切、禁止する。それと全ての私物を没収だ。以上！
浜田 ！！！！
古木 入房だ。

その場で土下座をする浜田。

浜田 先生！お願いします。それだけは勘弁して下さい。お願いします！
古木 入房！
浜田 先生！どうかそれだけは許して下さい、お願いします、お願いします！！

古木 入房だ！
浜田 お願い・・・

目に涙を浮かべながら入房する浜田。
古木看守長が電子キーで房の扉を施錠する (SE)

古木 一五〇番、出房だ！
やすし はい？

古木看守長が電子キーで房の扉を開ける (SE)
出房するやすし。

古木 懲罰房在監中はしっかりと反省をしていたようだな？
やすし はい、これからは日頃の生活態度を改めたいと思います。
古木 そうか、それは良い心構えだな。
やすし はい。
古木 (足下を見て) あの草履はどうしたんだ？
やすし 処分して貰いました。
古木 いつ処分したんだ？
やすし 懲罰房に入って十日後です。
古木 その処分に関して誰が許可をしたんだ？
やすし 新任の先生にお願いしました。
古木 お願いした？
やすし はい。

古木 そんな勝手な事をしていいとでも思っているのか？

やすし ？

古木 忘れたのか？所内生活の手引きの中に「如何なる自品でもそれを処分する時には必ず申請手続きをしなくてはならない。上記に関し違反が発見されれば直ちに懲罰に処す」と。

大きな雷が拘置所近くに落ちる (SE)

やすし !!!

古木 これから一五〇番を懲罰審査会に掛ける！

やすし 先生、ちょっと待って下さいよ！僕は別に違反をするつもりは無かったし、それにさっき戻って来たばかりですよ！！

古木 そんな事は一切、関係ない！

やすし なんで僕ばかりなんですか！！！！

ポケットから呼子笛を取り出し、何度も鳴らす古木看守長。

房内で正座の姿勢を保っていた秀島が立ち上がり、

秀島 おい！いい加減にしろよ！テメーが処分しろって言ったんだろ。

言っとくけどなあ、いくら古くて汚い草履でも、そう簡単には捨てられない大切な物もあるんだよ！左遷された腹いせを、いつもこいつに八つ当たりしてんじゃねえーよ！この制服囚人が！！

古木看守長が電子キーで秀島の房の扉を開ける (SE)

古木 もう一度言ってみろ？

房の入口で向かい合っている二人。
藤原、小松両看守が慌ててやって来る。

秀島 ああ、何度でも言ってやるよ、制服囚人が！こいつを審査会に掛ける
んだったら、代わりに俺が受けてやるよ！

古木 (藤原に) 二七〇番を連行しろ！

藤原 何があったんですか？説明して下さい！

古木 後で話す。

藤原 説明して下さい。

古木 早く連行しろ！

藤原 ……

藤原看守が秀島に手錠を掛け、審査室へ連行する。

古木 小松？

小松 はい？

古木 房内にある二一五〇番の私物箱を没収しろ？

小松 は、はい。

小松看守が電子キーで浜田の房の扉を開ける (SE)

浜田が小松看守に私物箱を渡す。

電子キーで房の扉を施錠 (SE) し、その場から去る小松看守。

自分の房の前に立ちすくんでいたやすしが古木看守長を睨みつけている。やすしの視線を感じた古木看守長がやすしに目をやる。自ら入房するやすし。
古木看守長がやすしの房の扉を施錠する (SE)
静かにその場から去る古木看守長。

やすし なあーメガネちゃん？先輩は僕のせいで連れて行かれたんやな？
浜田 違いますよ、あいつが悪いんです。やすしさんは何も悪くないですよ。
今西 そうですよ、やすしさんは悪くないですよ……

(M4) in

やすし 今ちゃん、初めて話しかけてくれたな？ありがとうな。
今西 ……
やすし もし僕がアホやなかったら、いじめられへんかったんかな？
浜田 何を言ってるんですか？そんなの関係ないですよ！
やすし 僕はなあーどこに行ってもいじめられるんや。いつもそうやってん。あの事件の後からや。いじめる方も悪いけど、いじめられる方もいかんのやな。それに僕は人を三人も殺した人殺しやし……

言葉が浮かばない浜田と今西。

やすし 早く、執行の日がけえへんかなあ……

やすしが房内の窓の隙間から空を眺めている。

今西 ……そんな事言わないで下さいよ……
浜田 そうですね、やすしさん……

やすしが口笛を吹き出す。悲しい音色の口笛。
口笛は七つの子。
何とも言えない空気が各房内に漂っている……

(M4) up

暫くして照明がブル転換に変化し、転換スタート。
やすしと今西は私物箱から八角帽子を取り出し被る。
浜田は事前に仕込んでおく。
八角帽子を被った秀島が転換要員として舞台上に。
死刑囚4名で独居房用の4枚の平台を移動する。
セッティング後、平台の上に木製のテーブルと
パイプ椅子2脚をセットする藤原、小松の両看守。

4 【東京拘置所内・看守室】十月上旬

深夜、看守室で夜間勤務の合間に新聞を読んでいる藤原看守と、
事務作業をしている小松看守。
虫の鳴き声は聞こえている (SE)

藤原 小松？

小松 はい。
藤原 懲罰房での二七〇番の様子はどうだった？
小松 先程の巡回の際は寝ていましたけど、ここ最近、壁に向かって同じ言葉を何度も繰り返したり、時折大声で喚いてる姿を度々目にしています。
藤原 同じ言葉？
小松 その目つきが何だとか、そんな目で見るとか・・・
藤原 軽度の拘禁ノイローゼかも知れないな・・・
小松 そういう事か・・・
藤原 心配だな、明日にでも先生に診察してもらった方がいいな。
小松 ええ。
藤原 ひと月過ぎたけど、少しは慣れたか？
小松 はい。
藤原 小松はどうして刑務官になろうと思ったんだ？
小松 小さい頃から心理学に興味がありまして、特に犯罪心理なんですけど。
藤原 小さい頃って、いつ頃からだよ？
小松 小五ぐらいからです。
藤原 変わった小学生だな？
小松 よく皆に言われてました。
藤原 だろうな。
小松 大学時代に犯罪心理学を専門にしたセミナーに参加した事が切っ掛けで、増々興味を持つようになったんです。
藤原 だったら教授や心理職を目指した方が良かったんじゃないのか？

小松 実は精神科医になりたくて医学部へ進学するつもりだったんですけど、高校三年の時に両親を事故で亡くしまして。実家はど田舎の貧乏な家でしたから、さすがに医学部への進学は厳しくて結局心理学科のある文学部を選択したんです。でもある時、テレビで刑務官の仕事を特集した番組の中で、出所した元受刑者から刑務官に感謝の手紙が送られて来たのを観た時、犯罪を犯した人間を、少しでも更正させる事が出来る刑務官って、やりがいの有る仕事だなあーって感じて。

藤原 医者を目指すのに比べたら、お金は掛からないしな。

少し笑いながら小松看守が、

小松 はい、その通りです。でもまさか初めての勤務が東京拘置所のしかも新四舎二階だとは想像すらできなかったですけど。

藤原 そりゃそうだよな。

小松 藤原看守はどうして刑務官に？

藤原 俺の場合は小松みたいに明確な理由は無かったんだけど、口にしないだけで、意外と何となく就職し、仕事に追われ、気が付いたら時間だけが過ぎてて、自分の人生ホントにこれでいいのかなあーって感じる人って多いと思うんだ。俺もかなり悩んだ時期があったんだけど、でも今は違うんだ。いつしか刑務官である事に誇りを持てるようになったし。

小松 どうして変わったんですか？

藤原 どうしてだろうな・・・自分でも何故変わったか分かんないけど、恐らく真剣に受刑者や未決囚達と向き合うようになったからかもな。

十年も掛かったけど・・・ある意味一五〇番とは同期だよ。

小松

・・・

藤原

六年前、新四舎二階に配属されたその日に一五〇番も収監されたんだ。

小松

だから何となく他の死刑囚達よりも、距離が近いんですね。

藤原

言っとくけど、職務中は私的感情は一切、入ってないから。

小松

・・・藤原看守は一五〇番の事件についてはご存知なんですか？

藤原

知りたくなくても、あれだけ報道されてたからな・・・

小松

まさかあの事件を起した・・・失礼しました。

藤原

・・・

小松

もうひとつお聞きしてもいいですか？

藤原

ああ。

小松

藤原看守は古木看守長が取られている行為についてどう・・・

藤原

お前はどう感じる？

小松

生意気な事を言いますが、あまりにもやり過ぎじゃないかと。

藤原

実は昨日、所長に一連の行動を報告したんだ。所長曰く、もう暫くの間だけ様子を見て欲しいと・・・随分以前の話しだが、所長がまだ福岡拘置所で看守部長時代だった頃、古木看守長も同じ福岡拘置所にいたそう。その当時、古木看守長の階級は副看守長だったそう。

小松

古木看守長は、所長の上司だったって事ですか？

藤原

ああ。どの施設に行っても、今と同じ行動を取ってたらしいよ。

小松

・・・

藤原

きっと何か裏があるんだろうな、一度何気なく調べてみるよ。

小松

はい。最後にもうひとつだけお聞きしていいですか？

藤原 何だ？

小松 今まで刑の執行に立ち会った事はあるんですか？

藤原 厳しい質問だな。

小松 執行に立ち会ってこそ、一人前の刑務官になるって聞いた事があるんですが・・・

藤原 それはどうだろうな・・・半年前に初めて立ち合ったよ。

何かを感じる小松看守。

小松 これは私の個人的な考えですが、被害に遭われた遺族の感情を考えた場合、死刑制度がある事については賛成ですが、執行する立場の我々は職務とはいえ、人を殺めるという事には、変わりはないんじゃないかって、最近考えるようになって・・・ただ私にもその時がくれば職務を遂行しますけど。

藤原 ……

看守室に古木看守長が戻って来る。

古木 何か変わりはないか？

小松 一時の巡回の際には特に異常はありませんでした。

古木 そうか。

小松看守が巡回報告書を古木看守長に渡す。

藤原 古木看守長？

古木 何だ？
藤原 五七〇番の弁護士から送られて来た、郵便物の内容に付いてなんです
が・・・
古木 検閲に引っかかる内容なのか？
藤原 そうではありませんが、私から渡しても・・・

藤原看守の言葉を遮るかのように古木看守長が、

古木 分かった。内容を確認した上、俺から直接本人に渡すから後は任せろ。
藤原 分かりました。

古木看守長に手紙を渡す藤原看守。腕時計を見る小松。

小松 藤原看守、そろそろ時間です。
藤原 ではこれから少し仮眠休憩に入ります。
古木 ああ。

一礼し、仮眠室に向かう二人。
椅子に座りゆっくりと手紙を広げ読み始める古木看守長。
(M5) in 暫くして照明が (FO)
すぐにブル転に照明が変化し、転換スタート。
八角帽子を深く被った秀島と藤原看守が机と椅子をはける。
同時進行で一旦はけた小松看守が浜田、やすし、今西の三名を
廊下から各房へ入房させる。

歩調を合わせ、イメージシーンの印象を醸し出す。

5 【東京拘置所 新四舎二階】十月中旬

早朝、房内にはまだ月明かりが差し込んでいる。
やすしと今西はまだ就寝中だが、
浜田は正座姿で真っ直ぐ前を向いている。
ここから長袖の衣装を着ている死刑囚達。
拘置所の外は雨が降っている (SE)

浜田 あの時、私が取った行動は、時が経つにつれ後悔の念を越えた境地でしか今はありません。残されたご遺族の皆様には心からお詫びを申し上げます。罪と罰とはこの事で、私自身の頭痛は昨日から極限状態に達していますが、素直にこの痛みを受け入れる事が、私なりに考えた償いでもあります。

浜田の頭痛が少しずつ酷くなっていく。

浜田 ただ最後に一言だけ言わせて下さい。心の底から友と信じて北山兄弟に、私の人生の全てを託していた事だけは信じて下さい・・・

正座していた浜田が突然倒れ込む。
声を出しながら痛みを我慢している浜田。
浜田の声に気付いたやすしが、

やすし おいメガネちゃん、どうかしたんか？

浜田の悲鳴が徐々に大きくなる。

やすし おいメガネちゃん、また頭が痛いんか？なあ、メガネちゃん！

今西が目を覚まし、異変に気付く。

やすしが房内にある非常用のボタンを押す。

新四舎二階に非常ベルが鳴り響く (SE)

やすし 先生！先生！早く来て下さい！先生！！！

藤原看守が慌ててやって来る。

藤原 どうした？

やすし 先生！メガネちゃんがおかしいんです！

藤原看守が電子キーで浜田の部屋の扉を開ける (SE)

藤原 二一五〇番、どうした？また頭が痛いのか？おい大丈夫か？

藤原看守が浜田を抱きかかえ廊下に出す。

やすし おい、メガネちゃん！大丈夫か！メガネちゃん！！！

廊下から姿が見えなくなる浜田。

非常ベルが (FO)

照明がブル転に変化する。

(M6) in

小松看守が廊下からやって来る。

イメージシーンの印象を醸し出す。

やすしのナレーションが流れている中、

小松看守の指示に従い、出房するやすしと今西。

小松看守と共に房を後にするやすしと今西。

転換スタート。

八角帽子を被った秀島が舞台上に椅子を一つセッティング。

やすしのナレーション

結局、メガネちゃんは帰らぬ人となった。

死亡診断書によると、握り拳程の悪性の腫瘍が後頭部に溜まり、

たとえ手術をしたとしても助かる見込みは殆どなかったらしい。

きっと本人はその事に気付いていたに違いない。

メガネちゃんにとってはこれで良かったんや。刑が執行されるのでは

なく、自分自身の意志で死を選んだんやと思う。よお頑張ったなあ、

やっと死への恐怖から逃れられるなあ・・・三週間後、メガネちゃん

が書いた俳句を、僕が代わりに新聞社へ投稿し、その俳句が初めて

入選した。

浜田のナレーション

温もりを感じて止まぬ 壁の友

ナレーション終わりには今西が椅子に座り、板付きになっている。
暗転にはせず、ブル転から次のシーンの照明に変化。

6 【東京拘置所内 面会室】 十一月下旬

午後3時頃、面会室の椅子に座り、
妹の恵子が来るのを待っている今西。
扉が開き（SE）恵子がやって来る。
拘置所の外は強風が吹いている（SE）
恵子の声はナレーション。

今西 よく来てくれたな、元気だったか？

恵子の声 …うん。

今西 前回来てくれたのが梅雨の時期だったから、四カ月振りだな？

恵子の声 そうだっけ？

今西 ああ、ここに居るとカレンダーを毎日飽きる程見てるし、それに時計
はないけど、何となく今何時か、分かるようになるんだ。

無言の恵子。

今西 その後お母さんの体調はどうだ？

恵子の声 最近は落ち着いているけど。

今西 それは良かった。仕事は忙しいのか？

恵子の声 ……うん。

今西 そっか。何か変わった事はなかったか？

無言の恵子。

今西 そうだ！彼とは上手くいってるのか？ひょっとして婚約するかもって言ってただろ？

無言の恵子。

今西 どうした？何かあったのか？

恵子の声 この前、ワイドショーのレポーターが突然うちに来たんだ。

今西 ……

恵子の声 過去に起きた事件のその後取材しているとかで…

今西 ……

恵子の声 その番組が放送された後、自宅の壁がペンキで落書きされたの。

今西 ……

恵子の声 人殺しの家族はこの街からすぐに出て行け、同じように、この家を放火してやるからって…

今西 ！

恵子の声 そのせいで婚約も解消になったし。

今西 ！！！！

恵子の声 さっき刑務官の方が言ってたけど、まだ上申書を書いているんだっ

てね？いつまでそんな情けない事してるの？お兄ちゃんは目撃者の証言通り、あの日あの時間にサウナにいたんでしょ？もういいから素直に認めたらどうなの？

今西 . . .

恵子の声 仕事やプライベートまでも上手く行ってない中、あの日上司に浴びせられた言葉で、全てに嫌気がさし、その後サウナでお客と揉めて怒りが収まらなかったから、仮眠室に火を付けた後、その場から慌てて逃げたんでしょ？

今西 だから違うんだって！その時間にサウナにはいたけど取調べの時にあの刑事が . . .

恵子の声 もういい加減にしてよ！あんたなんて一日も早く刑が執行されればいいのよ！

今西 . . .

恵子の声 もう二度と来ないから . . .

今西 . . .

扉を開けたまま (SE) 出て行く恵子。
少しして古木看守長が面会室にやって来る。

古木 まだ時間は残ってただろ？

今西 . . .

古木 ここ数カ月、支援団体の方達との面会がないみたいだな？

今西 何度も手紙を書いているのですが、お忙しいのか、なかなか返事を頂けなくて . . .

古木 忙しいというより、ひょっとして、今は日本にいないんじゃないのか？

手に持っていた手紙を今西に渡す古木看守長。
手紙を読み出す今西。

古木 残念だが支援団体の代表者である平久保さんが、仕事の都合で急遽海外に転勤になっていたそうさ。

今西 !!!

古木 代表者がいないという事は事実上、お前の支援団体は現状で考えると解散という事になるだろ？

手紙を読むのをやめ、消印を確認する今西。

今西 九月十六日の消印って、二カ月以上も前の手紙じゃないですか？

古木 言っただろ？必ず後悔させてやるからなと。これでお前も終わりだな。良かったじゃないか？これからは無駄な労力を使わなくて済む訳だし。

今西 どうして、どうしてあなたはこんな事をするんですか？

悔しさに怒りが爆発する今西。

古木 知りたいか？よく聞け・・・何もしていない肉親が殺された時の気持ち分かるか・・・お前ら死刑囚に。

今西 . . .

古木看守長がその場から立ち去る。
拘置所内にも強風の音が聞こえて来る (SE)
やすしのナレーションが (in)
今西はそのまま舞台上に。

やすしのナレーション

秋の終わりを告げる木枯らしが、今年もゼロ番区に吹き荒れた。
それは僕達にとって、もっとも過酷な季節がやって来たという、
知らせでもある。

ナレーション終わりで照明がブル転に変化。
ブル転になり今西は椅子を持ってはける。
平台4枚をセンター分けにし、運動場への転換の可能性あり。
縄跳びを持った藤原看守とやすしが板付きに。

7 【東京拘置所内 運動場】十一月下旬

拘置所の屋上にある運動場で藤原看守が監視の下、
やすしが縄跳びをしている。
藤原看守はファイルを持っている。
このシーンでの死刑囚達は運動靴を履いている。

藤原 上手くなったなあ？

やすし だってキャッチボールが出来なくなったし、これしかやる事ないんやもん。

藤原 ……

やすし 先生、もうキャッチボールは出来へんの？

藤原 そんな事はないよ、暖かくなったらまた出来るから。

やすし 春まで待たんといかんのか？それまで生きてるかなあ？

藤原 一五〇番？

やすし はい。

藤原 そんなにキャッチボールがしたいのか？

やすし はい。

藤原看守がファイルから一枚、紙を抜き取り、

藤原 じゃあ、やろうか？

やすし やろうかって、グローブとボールがないやんか？

紙を丸めた藤原看守が、

藤原 ほら、これで我慢してくれ。

丸めた紙をやすしに投げる藤原看守。

その紙をキャッチするやすし。

藤原 一五〇番は野球をやったのか？

やすし チームに入ったりした事はないけど。

藤原 正直、そんなに上手くはないもんな？

やすし ほっといてよ！

藤原 冗談だよ。

やすし ……下手やけど、キャッチボールは僕の家族との想いでなんですよ。

藤原 ……そっか。

小松看守と今西がやって来る。

小松 お願いします。

頷く藤原。

小松看守がその場から離れる。

藤原看守は少し離れた所でファイルに報告事項を記入している。

やすし 今ちゃん、具合でも悪いんか？

今西 ……

やすし 何かあったんか？

今西 最近、自分自身が分からなくなってきて。

やすし ……

遠くを見つめながら今西が、

今西 きっと以前、秀島さんが言った事が正しいのかも……真実って
一体どこにあるんだろ？

やすし どこにあるって……

今西 僕が今やってる事って、結局、無意味なんだろうね。
やすし そんな事、絶対無いって。
今西 無意味なんですよ。
やすし 何言うてんの、真実は今ちゃんの心の中にあるやんか！
今西 . . .

小松看守と秀島が運動場にやって来る。
目が虚ろな秀島を見て何かを感じているやすし。
藤原看守がやすしと今西に、

藤原 そろそろ時間だ。

やすしだけ「はい」と返事をする。

藤原 気を付け！

姿勢を正すやすしと今西。

藤原 右向け右！

号令に従うやすしと今西。

藤原 前へ進め！一、二！

やすし 一、二。

藤原 一、二！

やすし 一、二。

歩調を合わせながら房に戻って行くやすしと今西。

小松看守が運動場から出て行く事を確認する為、

やすし達を監視している。

秀島が縄跳びをし始める。

(M7) in

少しずつ照明が変化して行く。

秀島の犯行時の回想場面へ。

金城の声 秀！あいつだよ？見てみろよ！この写真とそっくりだろ？

秀島の声 (ビビりながら)・・・ああ。

金城の声 俺が周りの二人を何とかやっちまうから秀はこの写真の組長一人
だけやればいから。

秀島の声 やればいからって金城？お前本当にやんのかよ？

金城の声 当たり前じゃねえーかよ。もう金貰ってんだぞ！今さら金を返しま
すからやめさせて下さい！なんて無理に決まってんだろ？

間

金城の声 心配すんなって、あとの始末は街のチンピラを身代わりにして出頭
させるって言ってたし。

秀島の声 本当かな？

金城の声　うちの会長が嘘を付く訳がないだろ？

間

金城の声　そろそろだぞ！弾の確認しろ？

秀島の声　あっ、ああ。

金城の声　行くぞ！

秀島の声　待てよ！

金城の声　早くしろよ！車に乗っちまうだろ！ナミとの子供がもうすぐ生まれるんだろ・・・三人でもう一度、やり直すんだろ！！

間

金城の声　行くぞ！秀！

秀島の声　・・・ああ。

金城の声　あ！あ！あ！ああああああああ！！！！！！

叫びながらターゲットに向かう秀島。

金城の拳銃から一発の銃弾が放たれるが的を外してしまう。

連続して引き金を引く金城だが、弾が残っていなかった。

金城の声　秀！弾が一発しか入ってねーじゃねーかよ！

秀島の声　何言ってんだよ？

発砲に気付いた三人の男達が、秀島達に迫って来る。

金城の声 秀！撃て！撃て！！！

秀島の声 ああああああ！！！

叫びながら六発の銃弾を放つ秀島。

金城の声 秀！逃げるぞ！何やってんだよ？早く！

秀島の声 （放心状態で）こいつ俺の目をじっと見てんだけどさあ・・・

金城の声 いいから、もう死んでんだよ！逃げるぞ！

秀島の声 まだ睨みつけてるよ！

金城の声 もういいよ、先に逃げるからな！

その場から立ち去る金城。

銃弾を浴びて即死状態で、仰向けに倒れている相手に、

秀島の声 どうしてそんな目で俺を見るんだよ？仕方がないだろーが！おい！

おい！聞いてんのかよ！！！そんな目で見るなよ！おい！

おい！！！

(M7) が (FO)

同じく照明も元に戻る。

秀島 だから言ってるんだろ？どうしてそんな目で俺を見るんだよ？おい

何とか言ってくれよ・・・

小松看守が慌てて秀島の元にやって来る。

小松 二七〇番！どうした！二七〇番！！

急に静かになる秀島だが、小声で何かブツブツ言っている。

(M8) in

照明が変化する、
小松看守に連れられて、房に戻る秀島。
秀島と入れ違いでやすしが舞台上へ。

やすし この時先輩は極度の拘禁ノイローゼに罹っていた。
拘禁ノイローゼの多くの症状が、犯行当時の事が常に蘇ってきて、
何に対しても意欲がなくなり精神状態が不安定になるらしい。
この後すぐに先輩はカウンセリングを受け、
初めて教誨に参加するようになった。
人間、死が迫ると最後に頼るのはやっぱり神さんなんかな？
ひょっとして僕もそうなるのかな？

(M8) up

照明がブル転に変化する。転換スタート。
ポケットから八角帽子取り出し被るやすし。
そのままやすしは平台の転換。
浜田、今西も八角帽子を被り転換する。

平台の転換が終わり、
藤原、小松両看守が机、椅子の転換。

8 【東京拘置所内・看守室】十二月上旬

夕方、看守室で物思いに更けている藤原看守。
巡回を終えた小松看守が戻って来る。
拘置所の外は雨が降っている（SE）
テーブルにはやすしの公判記録がある。

藤原 無事に転居作業は終わったか？

小松 はい。

藤原 何か不満は言ってなかったか？

小松 特になかったです。

藤原 よかった。

小松 藤原さん？

藤原 どうした？

小松 古木看守長は一体いつになったら、寝具の許可を出すつもりなんでしょう？いくらなんでもこの寒さだと彼等も限界だと思います。

藤原 ……

小松 さっきの巡回でも……もう見てられないですよ。

藤原 分かった。看守長が戻って来たら俺から話すから。

小松 ありがとうございます。

藤原 ……小松？

小松 はい？

藤原 看守長が何故、あのような行動を取るのか、その理由が分かったよ。

小松 ……

藤原 看守長が大学生の時、ご家族がある事件に巻き込まれたそう。以前から暴走族の好き勝手な行為や騒音に悩まされていた父と兄が深夜、身を挺して注意した所、逆上したメンバー十数名から暴行を受け、翌日、自宅から3キロ離れた河川敷で二人の遺体が発見されたらしい。その事件を機に看守長の人格が一変し、内定が決まっていた就職先を蹴って、刑務官の道に進んだみたいだ。つまり看守長は犯罪被害者だったという事だ。

小松 ……看守長のお気持ちは理解できますが、でも……

古木看守長が看守室にやって来る。

古木 今日はよく冷えるな。

藤原 看守長？

古木 何だ？

藤原 いつになったら寝具の許可を出すおつもりなんですか？

古木 そんな事はお前らが気にしなくていいよ。

小松 しかし、この寒さではもう限界かと思いますが。

古木 いいから口を挟むな。

小松 生意気な事を言いますが、職務を遂行するのに、私的感情を入れるのは違うんじゃないでしょうか？

藤原 小松！

何かを感じる古木看守長。

藤原 あとでこれに目を通して貰えますか？

古木看守長にやすしの公判記録を手渡す藤原看守。

「失礼します」と言い看守室から出ていく藤原、小松の両看守。

古木看守長が公判記録を読み始める。

古木看守長のナレーションがin

古木のナレーション

警視庁広域重要指定285事件。犯行動機、被告人南やすし当時六才の時、農家を営んでいた自宅に深夜、強盗目的で主犯格の山本武雄、西田智、山下秀樹、その他2名が侵入。自宅の居間にあった金庫を物色中、物音に気付いた被告人の父親である南正人が前記複数名を発見。押し問答があったのち、山本が所持していたナイフで全身の六十箇所をメッタ刺しにして殺害。その後二階で寝ていた被告人の母 南幸恵に暴行を加えたのちに殺害。前記複数名は犯行後に逃走。犯行当時、祖父とカブト虫を採りに外出していた被告人は帰宅後、悲惨な光景を目にする事に。

事件後被告人は精神状態が不安定になり、小、中学校共に殆ど通わず祖父と共に家業を手伝っていた。近所の人々の証言によると時折大きな声で祖父に「仇は必ず取るからな！」などといつも口癖のように言っていたらしい。また犯行に使用した拳銃を手に入れてからは自宅の裏

山で射撃の練習を繰り返していたとの事実が。この証言からいって計画的な犯行と言うのは間違いなく、被告人が二十二歳の時、新潟、神奈川での射殺事件に続いて二ヶ月後の5月4日に東京都世田谷区上馬にある中華料理店、海南亭にて、出所したばかりの山下秀樹（当時52歳）を所持していた拳銃で・・・

ナレーションの途中で（M9）in

同時に照明がブル転に変化。

ブル転の中、転換スタート。

八角帽子を浜田、他の死刑囚がテーブル、パイプ椅子をはけ、
平台の転換も行なう。

転換後、やすし、今西、秀島は板付き。

9 【東京拘置所 新四舎二階】 十二月上旬

深夜、やすしの独居房前の廊下に古木看守長がやって来る。

暫くして古木看守長に気付くやすし。

房の転居があり、やすし、今西、秀島の房の位置が変わっている。

今西、秀島は体を丸めながら就寝している。

拘置所の外ではかなり強い風が吹いている（SE）

やすし　こんな時間に先生が来るなんて珍しいですね？

古木　・・・

やすし 心配しなくても、最近は何も違反はしてないですからね。

古木 . . .

やすし 今晚は特に冷えますね？

古木 . . .

やすし 先生も風邪には気をつけて下さいよ。

古木 一五〇番、少し質問してもいいか？

やすし はい？

古木 どうして事件を起こしたんだ？

やすし どうしてって . . . お爺ちゃんと約束したからです。

古木 約束を？

やすし はい。

古木 それだけの為に事件を起こしたのか？

やすし それだけじゃないけど、約束したからです。

古木 . . . 約束を果たして、何か変わったか？

やすし そりゃ、すっきりしましたよ . . . でも . . .

古木 俺の事が憎いだろ？

やすし そんな事ないですけど。

古木 どうして？

やすし 僕は人殺しやし、仕方がないですから。

何かを感じている古木看守長。

古木看守長がその場から去ろうとした時、

やすし 先生？

立ち止まる古木看守長。

やすし 何で急にそんな事を聞いてくるんですか？

無言で立ち去る古木看守長。

やすしが体を丸くして再び就寝する。

(M10) in 同時に照明も変化。

藤原、小松両看守が毛布を持ってやって来る。

小松看守が電子キーで房の扉を開ける (SE)

扉が開く音は3つ (SE)

小松看守が順番に毛布を手渡していく。

毛布を受け取ったやすし達は、すぐに毛布をかぶり眠る。

電子キーで房の扉を施錠 (SE) する小松看守。

その場から去っていく藤原、小松の両看守。

照明 (FO) (暗転)

(M10) はそのまま次のシーンでも少しだけ流し続ける。

10 【東京拘置所 新四舎二階】 十二月中旬

消灯時間までのわずかな時間を各房内で過ごしている死刑囚達。

秀島は正座の姿勢でお経を唱えている。

今西は毛布を肩から羽織り、房内を歩き回っている。

今西 やすしさん、聞こえますか？やすしさん？

房内で横になっていたやすしが、

やすし うん、どないしたん？

今西 最近、何が何だか分からなくなってきたて・・・目撃者の証言通り、本当は僕がやったんじゃないのかなあ・・・記憶の中に無いもう一人の僕が、無意識のうちに火を付けたんですよ。そう！きっとそうなんだ、間違いないんですよ。先生、ちょっといいですか？先生、先生！！

やすし ちょっと何をアホな事言うてんのよ？しっかりせんとあかんやんかあ・・・

珍しく感情的になった今西が、

今西 やすしさん！僕はもう疲れたんですよ！！！！

やすし ……

今西 (ポツリと) 二人ともよくこんな所に、長い間居れるよね・・・

今西の言葉を聞いて何も言葉を返せないやすしと秀島。

(M10) から (M11) にチェンジする。

秀島 おいやすし、もうすぐクリスマスだな？

やすし そやな。

秀島 去年のケーキは確かチーズケーキだったよな？

やすし うん。

秀島 今年はイチゴ入りのケーキは出てくるかな？

やすし どやろな。

秀島 それにテレビ鑑賞会も楽しみだよな。

やすし うん。

秀島 去年から寅さんになったから、今年はその続き、観れんじゃないか？

やすし うん・・・ねえ先輩？

秀島 ん？

やすし 次回の転居の時、今ちゃんの隣の隣に戻してくれるかな？

秀島 まだ先だけど、戻してくれるから心配しなくても大丈夫だよ。

やすし ……

秀島 おい今西？クリスマス後は、ラジオで紅白歌合戦が聴けるし、年越し蕎麦も出てくんだぞ。言っとくけど、ここでも色んな楽しみはあるんだよ・・・元気だせよ。

今西 ……

秀島 でもよお、シャバに居た時は、ケーキや蕎麦なんかいつでも好きな時に食べる事が出来たんだよな？今更だけど、自由に過ごす事が出来るって、何事にも変える事が出来ない位、幸せな事なんだよな…………

秀島の言葉に何かを感じている今西。

やすし 先輩？一つ聞いていいかな？

秀島 何だよ？

やすし やっぱ子供に逢いたいんか？きっと先輩に似てて、可愛いんやろう

なあ・・・

秀島 ……

やすし それと教誨師さんって、どんな人なん？優しい人なら僕も教誨の行事に参加してみようかなあ。和菓子も食べれるみたいやし。

秀島 ……ああ。

やすし 今ちゃん、絶対に諦めたらあかんで。

今西 ……

やすし 前にさあ、今まで嘘をついた事ないのが僕の自慢やって言うたけど、ホンマは一回だけついた事あんねん。事件を起こす前の日に、老人ホームでお爺ちゃんに会った時、一週間だけ一人旅に出て来るって言うて、さよならしたんや。嘘つきの言う事は信用でけへんかも知らへんけど、今ちゃんはやってないって、なんか知らんけど、僕には分かるんや・・・

やすしの言葉に何かを感じている今西と秀島。

(M11) から (M12) 鐘の音にチェンジ。

照明も変化する。

× × × × × × × ×

所長室に入って行く古木看守長と藤原、小松両看守。

脱帽する古木看守長と藤原、小松両看守。

一歩前に出て所長から執行命令書を受け取る古木看守長。

元の位置に戻り着帽し、所長に敬礼をする古木看守長と藤原、

小松両看守。

所長室から出て行く古木看守長と藤原、小松両看守。

(M12) up

暗転。転換スタート。

房内にある毛布を看守達に渡す死刑囚達。

転換終わりで廊下から足音が聞こえて来る。

足音が止まり、房の扉が開く音が鳴り響く (SE)

扉が開く音はここまで使用している電子ロックと同音を使用予定。

1 1 【東京拘置所 新四舎二階】 十二月下旬

朝、やすしの房の前に古木看守長、藤原看守と小松看守が立っている。いつもと違う雰囲気になんかを感じている今西と秀島。

藤原 一五〇番、出房。

やすし はい。

藤原看守が電子キーで房の扉を開ける (SE)

藤原 おはよう。

やすし おはようございます。

藤原 先週から教誨に参加しているが、何か気持ちに変化はあるのか？

やすし はい、心にゆとりを持てるようになった気がします。

藤原　　そうか、それは良い事だな。
やすし　はい、何かあったんですか？

藤原看守が小松看守に視線を向け頷く。

小松　　一五〇番、本名は？
やすし　南やすしです。
小松　　本籍は？
やすし　大阪府能勢町畑中二一一番です。
小松　　現住所は？
やすし　東京都葛飾区小菅一の三十五の一、新四舎二階です。
古木　　昨日法務大臣から執行命令書が届いた。拘置所側としてはその命令に従わなければならない。残念だが南やすし君とは本日午前十一時をもってお別れをする事になる。
やすし　・・・

驚く秀島と今西。

藤原　　後ほど所長から正式に通達を行なう為、身辺整理と房の清掃を行っておくように。
やすし　はい。
藤原　　入房！
やすし　はい。

入房するやすし。藤原看守が電子キーで房の扉を施錠する (SE)

秀島 先生！執行される時期があまりにも早すぎないですか？
藤原 仕方がない。法務大臣が決めた事だ。
秀島 せめて後・・・一年ぐらいは・・・
藤原 ……
秀島 それじゃ、それじゃ、二十四日まで待ってくれよ・・・
古木 無理だ。
秀島 なあ、お願いだから頼むよ！！頼むよ！！
古木 無理だ！
秀島 おい！よく考えてみろよ！結局、お前らも俺達と同じ事をするんじゃないかよ！この人殺しが！法律だろうが何だろうが、人を殺すのに何の違いがあるんだよ！
藤原 二七〇番、静かにしろ！！
秀島 何とか言ってみろよ！！

その場を去る古木看守長達。

秀島 おい待てよ！待ってくれよ！！

やすしは私物箱の中を整理している。

秀島 やすし！今から一緒に脱走しようぜ？どうせ死ぬんだったら、死ぬ気でやれば成功するかも知れないしなあ・・・なあ、やすし！聞いてん

のか？やすし、やすし！！！！

黙っていたやすしが大声で、

やすし なあ先輩！お願いやから、もうそれ以上何も言わんといてくれ！！！！

お願いやから・・・

秀島 ……

(M13) in

やすし 正直、もう少しだけでもここに居たいわ。でも無理やもん。実はなあ、先輩と一緒に日に執行されへんかなあーって、ずっと思ってたんや。もし一緒に日に執行されたら、あの世でも一緒に居れるかも知れへんやん。

秀島 ……

やすし 先輩や今ちゃん、それにメガネちゃんは、僕にとって初めて出来た友達なんや・・・

秀島 ……やすし。

今西 やすしさん・・・

やすし 今まで仲良くしてくれて、ホンマありがとうな。

やすしの言葉に涙が溢れる秀島と今西。

やすし でもこれでやっと、会いたかった二人に逢えるんや・・・逢えるんや。

再び藤原看守と小松看守がやって来る。

藤原 一五〇番、出房！

やすし はい。

藤原看守が電子キーで房の扉を開ける (SE)

私物箱を持ってやすしが出房する。

私物箱を受け取る藤原看守。

藤原 房内の清掃は終わったか？

やすし はい。

藤原 身辺整理も終わったか？

やすし はい。

藤原 準備はいいか？

やすし はい。

藤原看守が電子キーで房の扉を施錠する (SE)

遅れて古木看守長がやって来る。

古木看守長がやすしの足下に以前処分したはずの草履を置く。

草履を手に取りやすしが、

やすし 先輩！草履が、草履が戻って来た！戻って来た……

草履を履くやすし。

古木 行くぞ。
今西 先生！お願いがあります。
古木 何だ？
今西 やすしさんに、どうしても伝えたい事があるんです。
古木 ……
今西 お願いします、少しだけでいいですから、話をさせて下さい。
古木 ……ああ。
今西 ありがとうございます。やすしさん、やすしさんは嘘つきなんかじゃないんです、嘘なんかついてないんです。ねえ、秀島さん、そうですよね！そうですね？

古木看守長が藤原看守に合図を送る。
古木看守長がその場から去っていく。

秀島 おい、やすし！やすし！！

同じく藤原、小松両看守、そしてやすしも去って行く……
房内で膝を付きながら泣き崩れる秀島と今西。
廊下奥の重たい鉄扉が閉まる音が新四舎二階に鳴り響く（SE）
照明が（FO）（暗転）転換スタート。
平台4枚を移動させ、形場への場面転換。
転換終わりでやすし、古木看守長、藤原、小松両看守は板付き。

1 2 【東京拘置所内 形場】 十二月下旬

拘置所内にある刑場で数珠を手に持ち、
最期のお悔やみをしているやすし。
古木看守長と藤原、小松両看守がその場に立ち会っている。

藤原 タバコでも吸うか？
やすし いえ、大丈夫です。
藤原 そうか。
小松 ケーキは美味しかったか？
やすし 美味しかったから、三つもいただきました。
小松 そうか。
やすし でも執行前にケーキを頼む人っていたのかな？
小松 どうだろうな・・・
藤原 お寿司や天井を頼んだ事もあったって聞いた事があるよ。
やすし 天井ですか？
藤原 ああ・・・無事に天まで昇れるようになって。
やすし そうなんですか。
小松 確認だが、執行後は医大に献体するという事で間違いないな？
やすし はい。

時計を見た古木看守長が、

古木 残念だが、そろそろ時間だ！

時計の秒針が動く (SE) がin

白手袋をはめる古木看守長と藤原、小松両看守。

白手袋をはめた小松看守が、目隠しをする白布を手に持ちやすしに近付こうとした時、古木看守長が、

古木 小松。

小松看守が白布を古木看守長に手渡す。

古木看守長がやすしの後方で立ち止まる。

時計の秒針の音 (SE) がカットアウト。

同時に照明がチェンジする。

やすし 先生、草履ありがとうございました。

古木 ……南くん、悪かった……許してくれ。

やすし 謝らないでくださいよ、先生は何も悪くないですから。

古木 本当にすまなかった……私も南くんと同じ事を考えた事があったんだ。でも、出来なかったんだ……

やすし ……よく分かりませんが、出来なかった事が正しいんだと思いますよ。後悔はしてないけど、人を殺したところで、両親が戻って来る事はないですから……

何かを感じている古木看守長。

時計の秒針の音（SE）が再びin

同時に照明が元に戻る。

古木看守長が白布でやすしを目隠しする。

藤原看守と小松看守が処刑台へ誘導する。

一步一步歩き出すやすし。

処刑台の上で立ち止まり、やすしの首に縄をかける。

準備整い所定の位置につく藤原、小松両看守。

古木看守長の合図で操作板のカバーを開く藤原、小松両看守。

古木 南やすしくん、これで本当にお別れだ。最期に言っておきたい事は？
やすし 五七〇番さんの力になってあげて下さい、お願いします……
それともう一回だけでいいから、あの畑から見える夕日を、もう一回
だけ……見たかったなあ……

無言になるやすし。

時計を見る古木看守長。

古木看守長の右手に全神経を集中する藤原、小松両看守。

古木看守長が右手を下げて合図を送る。

時計の秒針の音（SE）がカットアウト。

ボタンを押す事ができない藤原、小松両看守

そんな二人に対して古木看守長が、

古木 藤原、小松！！

言葉に出来ない感情の中でボタンを押す二人。
その瞬間、処刑台の下の床が開き轟音が形場内に響き渡る。
（暗転）（M14）in（M1）と同じ曲を使用。
暗転の中、転換スタート。
転換については、あえて転換はせずに、
そのままの状態です秀島、今西の板付きになる可能性あり。

1 3 【東京拘置所 新四舎二階】十二月下旬

深夜、房内で秀島と今西が窓辺に立ち、
微かに見える星空を眺めている。

秀島 やすしの奴、今頃、何してんだろうな？
今西 ……
秀島 きっとやすしにとっては、これで良かったんだよな？
今西 ……
秀島 やっと自由になれたんだから。
今西 ……
秀島 おい今西？お前も自由になるんだぞ？
今西 ……！！
秀島 必ず自由になるんだぞ……
今西 ……はい。

想い想いに星空を眺める秀島と今西。
輝く星空の中、二人にしか見えない流れ星が・・・

(完)